

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成29年11月24日
タイトル	給食米収穫の喜び！地域と絆を深める収穫祭！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成29年11月8日（水）福山市立東村小学校全児童44名が、学校農園で栽培された米と地域の方と児童が植えたサツマイモの収穫を祝い、学校給食食材納入グループ「若草会」や日頃学校の運営でお世話になっている方々を招き収穫祭が開催されましたので取材しました。

5、6年生は、若草会に教えていただきながら一緒に豚汁を作りました。具材の多くは若草会の会員が作った野菜です。調理室は出汁のいい香りや新鮮な野菜の香りがして、調理をして豚肉を炒めると「いいにおい！」味噌をとくと「味噌のいいかおりがする。おなかですいた。」と言っていました。また今年は調理の手伝いに男性の方も数人、子どもと一緒に野菜を切ったりしておられました。



子ども達は家でもよくお手伝いしているようで「灰汁とりしよう。」と教えてもらう前に進んで調理をする子もいました。

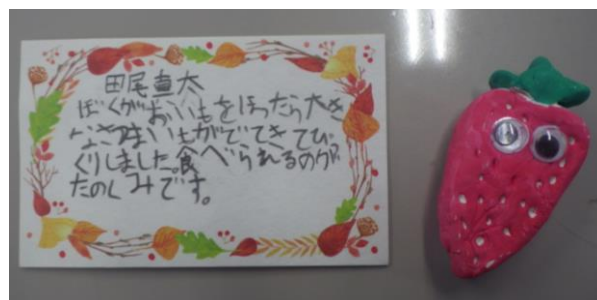
テレビカメラの取材を受け、少し緊張しながらも沢山の具材を切って鍋いっぱい豚汁を作りました。豚汁ができると男性陣が熱い鍋をランチルームまで運んでくださいました。

ランチルームでは子どもと招待者が交互に座るように配席しており、子ども達が配膳をしました。

1、2年生はお土産のマグネットを手作りし、3、4年生は玄関やランチルームの飾りつけと受付をし、5、6年生は豚汁の調理と収穫祭の司会進行やクイズなどをして全校生徒で「おもてなし」をしておられました。



かわいい飾りつけや手紙が添えられたお土産に心が温まりました。



収穫祭では児童を代表して米とサツマイモの栽培について感謝の気持ちが伝えられました。若草会の杉原直道会長より「今日は暦でいのこの日で、田んぼや畑の神様が家に帰る日です。今日、収穫祭ができることに感動しました。」と話されました。

次に来賓の枝広福山市長（福山市土地改良区理事長）から「小さな時から土や植物に直接触れることや様々な事を教えていただくことは大変貴重な体験で、このような取組が福山市の多くの学校で増えていくことを願っています。」と話されました。

みんなで合唱し「今日だけはいっぱいおしゃべりしましょう。」と先生が言われ、今日の食材を納入して下さった方の紹介や子ども達からクイズが出され、和気あいあいと新米のご飯と具沢山の豚汁をいただきました。



栄養がぎゅっと詰まっていました。



豚汁の材料で「血や肉になるものを2つ言う」クイズがあり1つは豚肉でもう1つが味噌でした。味噌の原料の大豆は良質なたんぱく質で「畑の肉」と言われると教わりました。

「お米があまい」「豚汁がおいしい」「野菜やみかんの味が濃いね」とみんな笑顔でいただきました。



子ども達が「みんなで作った豚汁がおいしかった」「新米の味を楽しみにしていました。若草会のみなさんおいしかったです」と食事の感想を発表しました。枝広市長に感想をお聞きすると「口にいった時お米の一粒がわかり香りがよかった。豚汁も沢山具材が入っておいしかったので、おかわりしました。」と言われ、大きな拍手が起きました。最後に全員でごちそう様の挨拶をしました。

帰りには手作りのお土産を一人一人「今日はありがとうございました。」言いながら手渡ししてくれました。



枝広市長を東村小学校が見える学校農園に案内しました。

水土里ネット福山は田植えから取材をしてきましたが、収穫祭では子ども達も地域の方々も、その喜びの表情は格別なものでした。これからも21世紀土地改良区創造運動を通して子どもと地域の絆を深める取組みに協賛してまいります。